

令和7年度 淀川区教員研究発表会

児童が主体的に学びを創造する —探究的な学びの視点を取り入れた授業づくり—

令和8年1月14日(水)

大阪市立十三小学校 

本校の児童の実態

- 2026年度 創立100周年
 - 児童数・・・151人
 - 課題 相手を受け入れる心 → 話し合い活動
 - 道徳科の研究(R3～R6)
 - 「自他を大切にする児童の育成」
- 本音で語ることができるようになった。
- ▲ 話し合うことに楽しさを感じられない児童も一定数残った。

1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ



本校の児童の実態 (R6 経年調査より)

めあてが示され、自分で目標を立てたか。

学習内容を振り返ることができたか。

話合いで、考えを深めたり、広げたりできたか。

自分で考え、自分から取り組んだか。

自分にあった教え方、教材、学習時間だったか。



あてはまる

あてはまらない

この2項目が特に低い。

1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ



本校の児童の実態（R6 経年調査より）

32 学習内容を振り返る活動を行っていたか。

41 自分にあった教え方, 教材, 学習時間などになっていたか。

特に, この2項目が大阪市平均より低い

「探究的な学び」に着目

- ・ 未来社会を創造する主体としての自覚を育む。
- ・ 学ぶ意義や見通しを明確にもって学習に向かう。
- ・ 児童自らが主体的に学びを創造していく。
- ・ 「自分なりに問いを立て, 自分なりの方法で, 答えにたどり着く探究する力」を育成する。

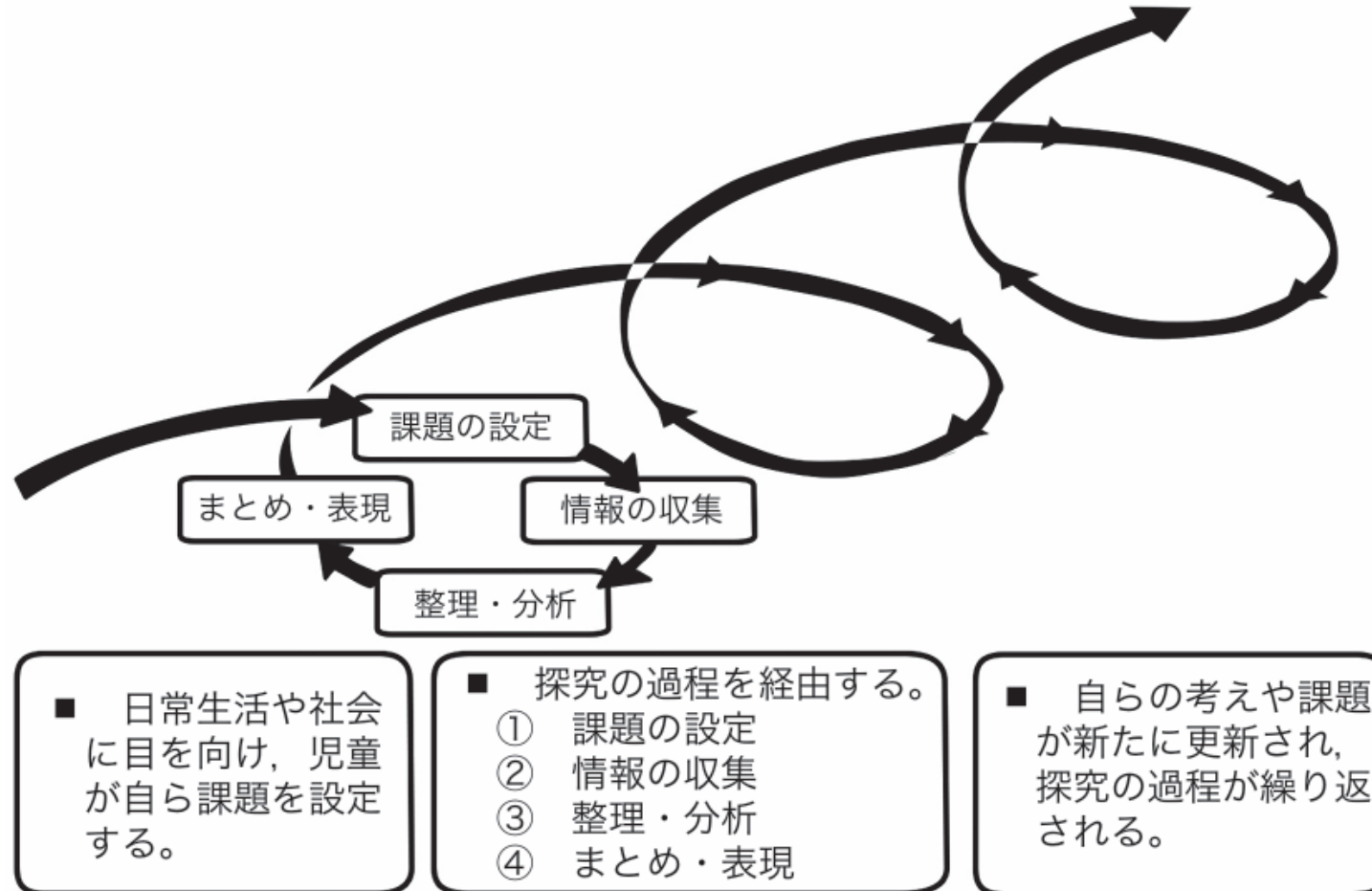
「探究的な学び」に着目

「探究的な学び」

- 主体的に取り組んでいる。
 - 自ら調べたいことを調べて、まとめている。
 - 調べたことや考えたことを活発に発表している。
 - 自分で立てた課題を解決している。
 - 学習したいことを学習する。
- ▲ どのように指導すればいいのかわからない。
 - ▲ 児童が調べる学習を行っていいのだろうか。
 - ▲ 学力が身に付くのだろうか。
 - ▲ どのようにして評価すればいいのかわからない。



探究的な学び(小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」より)



1. はじめに

2. 研究の概要

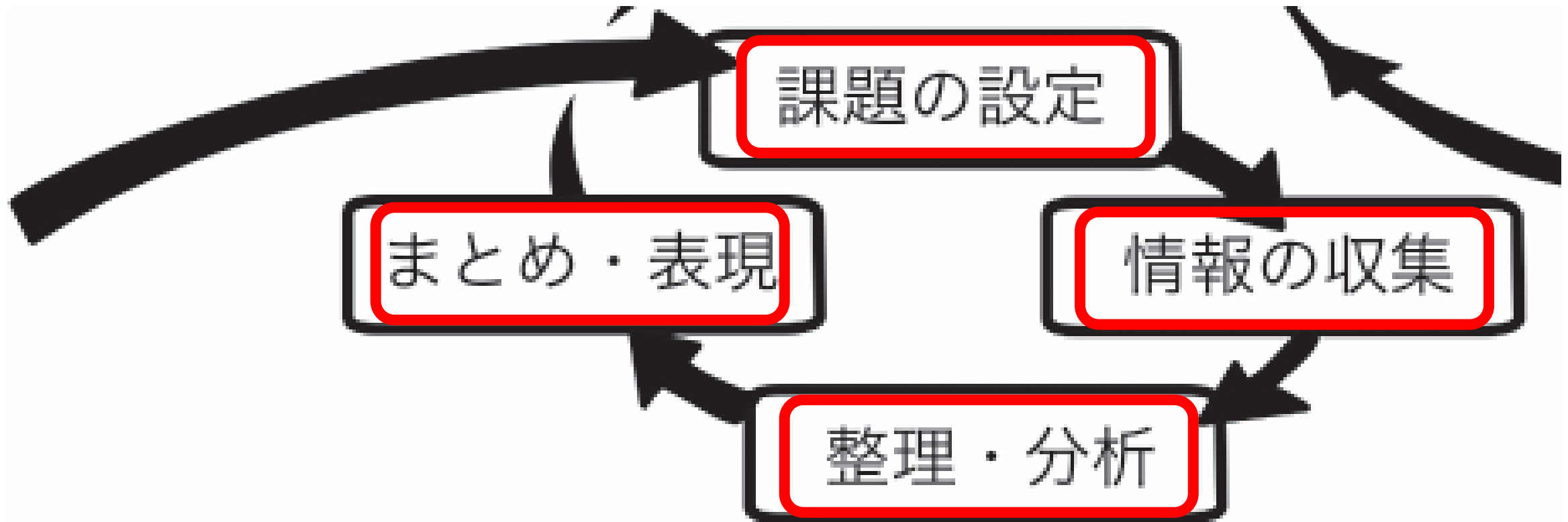
3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ



探究的な学び

(小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」より)



1. はじめに

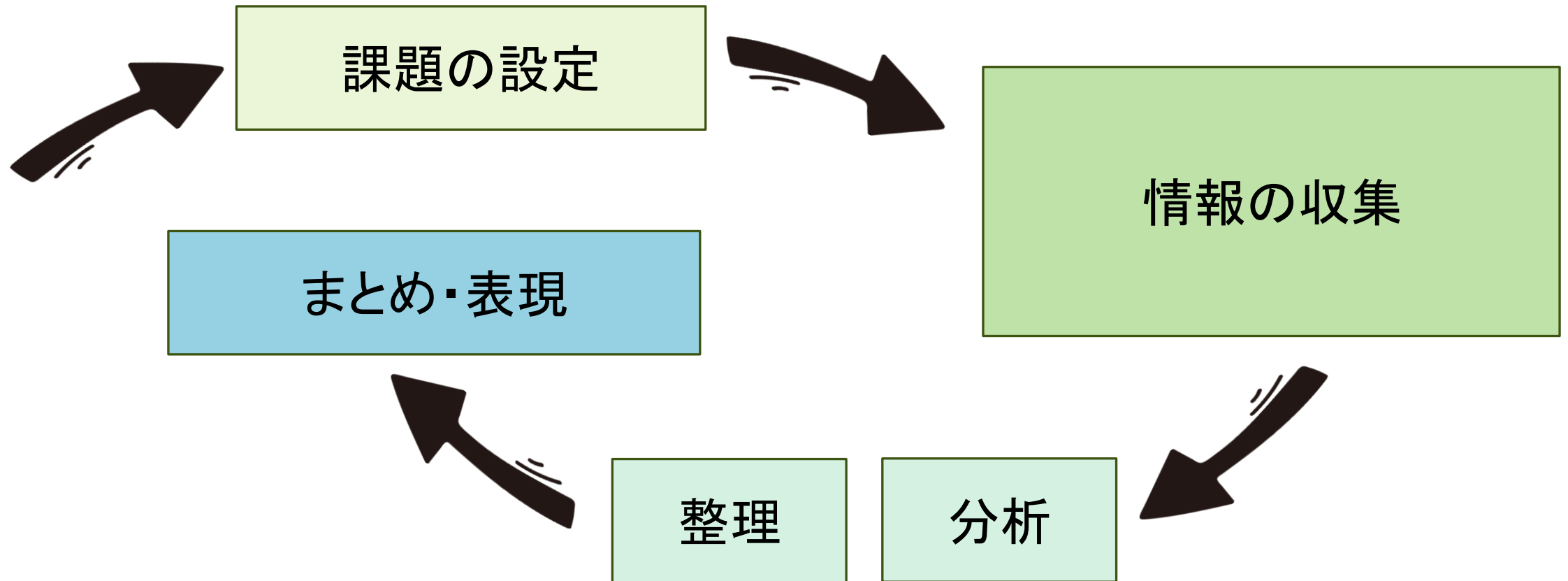
2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ



探究的な学び(日常生活から)



1. はじめに

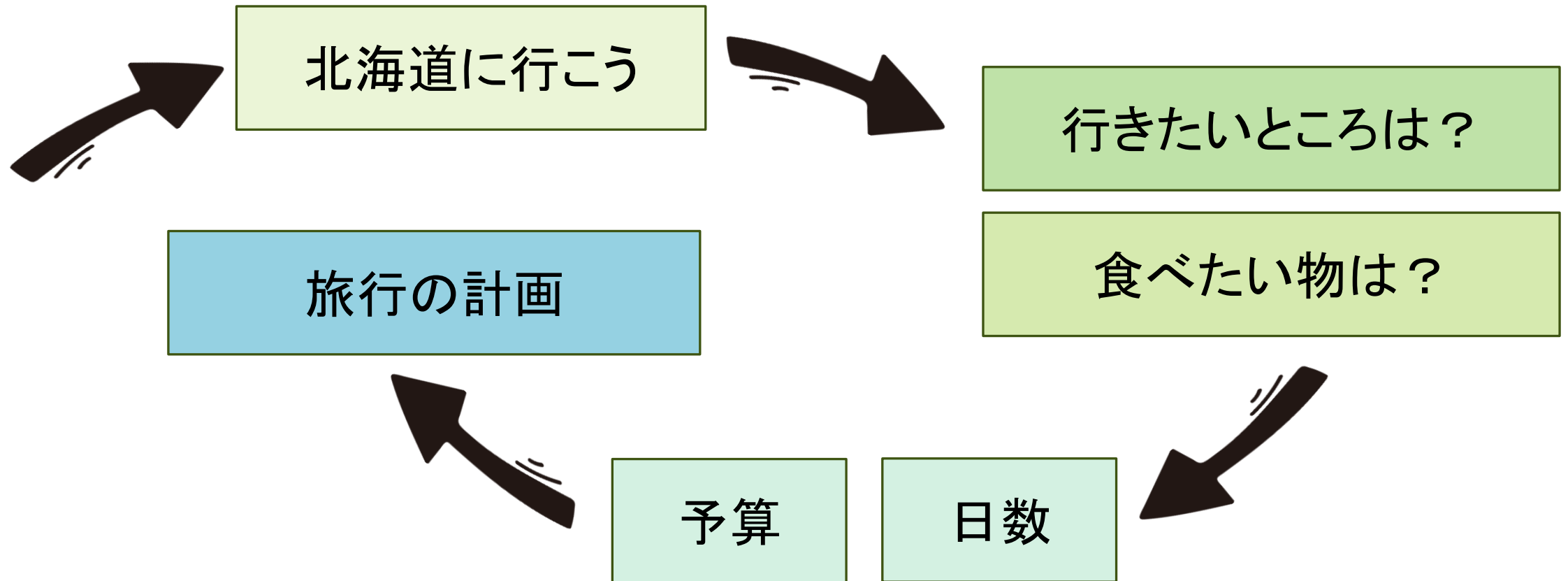
2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ



探究的な学び(日常生活から)



1. はじめに

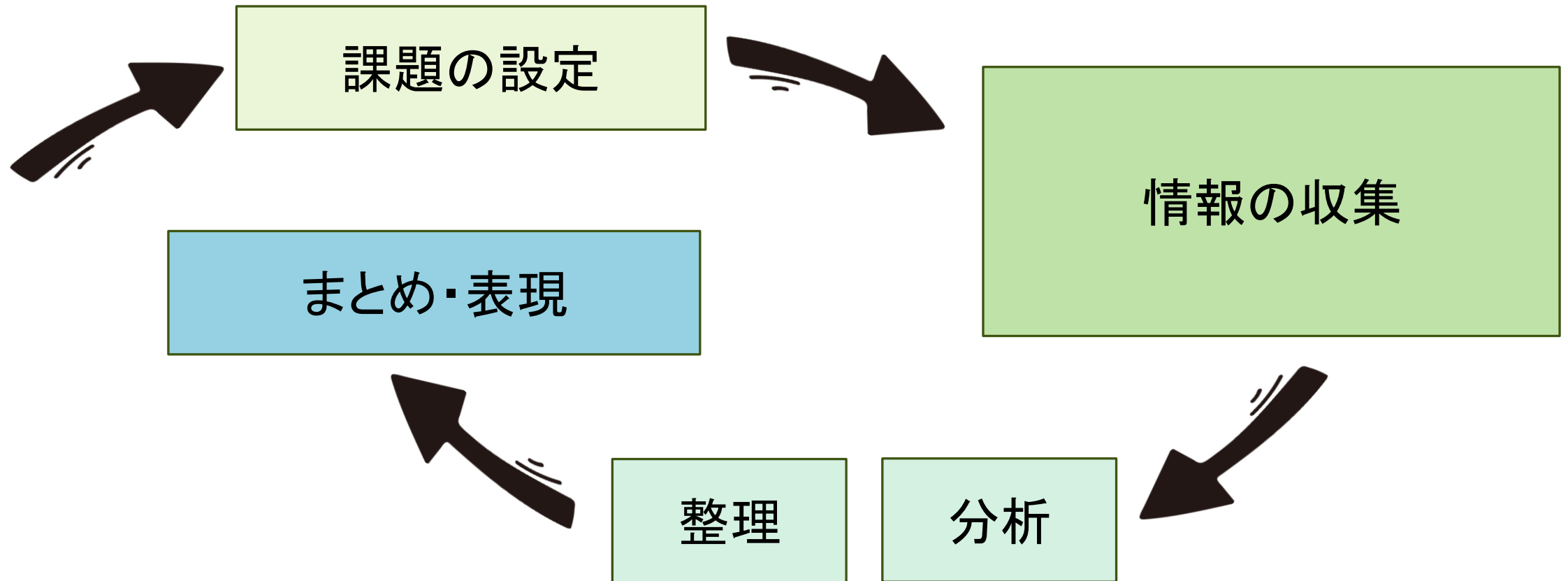
2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ



探究的な学び(日常生活から)



「探究」に着目する背景

- VUCA
- 情報化や国際化
- 長寿化
- 「学習内容をどのように教えるのか」
⇒ 「どのようなことが身に付いたのか」

研究主題，及び研究仮説

【研究主題】

児童が主体的に学びを創造する
—探究的な学習の視点を取り入れた授業づくり—

【研究仮説】

見付けた課題をよりよく解決していくために、めあてをもって自らが主体的に調べて考えたり、他者と協働して多様な考えを認め合ったりしていくことで、児童は多様な見方で物事の考えを深めることができる。

1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ



研究主題，及び研究仮説

【研究主題】

児童が主体的に学びを創造する
—探究的な学習の視点を取り入れた授業づくり—

【研究仮説】

見付けた課題をよりよく解決していくために、めあてをもって自らが主体的に調べて考えたり、他者と協働して多様な考えを認め合ったりしていくことで、児童は多様な見方で物事の考えを深めることができる。

研究の内容

- (1) 「共同探究者」としての役割
- (2) 探究的な学びを展開する工夫
 - ① カリキュラム・マネジメント
 - ② めあて・振り返りの時間の確保
 - ③ ICTの活用
- (3) 「対話」の機能を活かした授業づくり
- (4) 「話すこと」「聞くこと」についての系統的な指導

研究の内容

(1) 「共同探究者」としての役割

- 伴走者
- ファシリテート
- 認め、励ます
- 変容を見取り、
学びをサポート

研究の内容

(2) 探究的な学びを展開する工夫

- ① カリキュラム・マネジメント
- ② めあて・振り返りの時間の確保
- ③ ICTの活用

- ・ テーマの設定
- ・ 学習計画
- ・ 単元全体を見通す
- ・ 各時間の
フィードバック

1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ



研究の内容

- 動作，表情も
- 協働的に
- 多様な見方

(3) 「対話」の機能を活かした授業づくり

(4) 「話すこと」「聞くこと」についての系統的な指導

1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ

研究の進め方 (研究グループ)



校長・教頭

対話

100周年

問題解決的に
学習を進める

児童理解
(学級経営)

1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ

1 対話グループ

探究的な学び ↔ 他者との協働

対話

1. はじめに

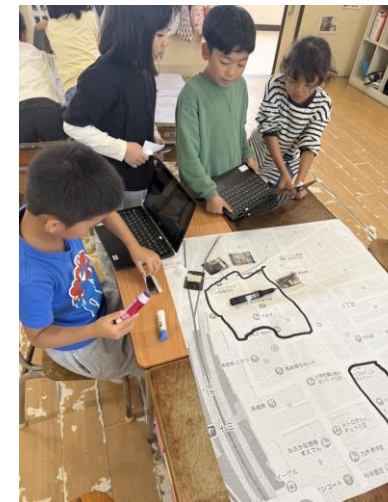
2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ

「しっかり聞く、話す」

低学年 【聞くこと】
【話すこと】



1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ

単元名

十三の「キラキラ」つたえ隊



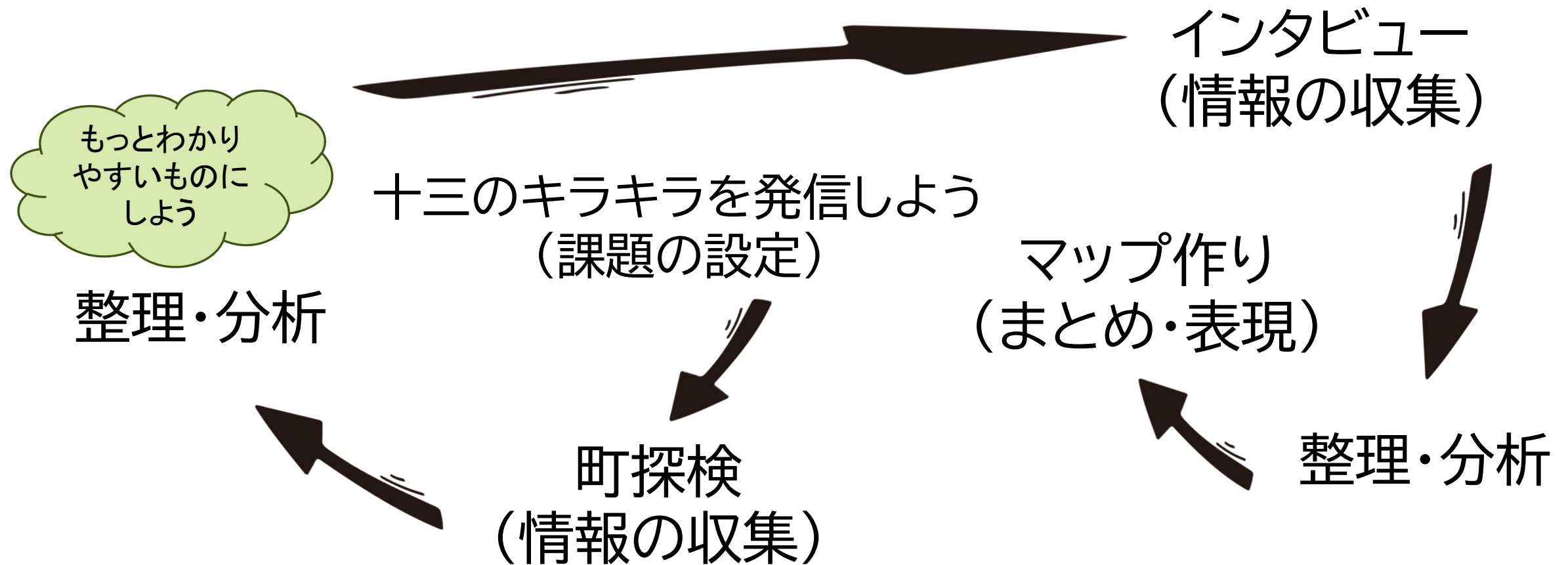
1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ

探究的な学びの展開



対話を取り入れた探究的な学び

- ・グループ活動
- ・意見や疑問の共有
- ・安心して話合いができる空間づくり

他者との協働につながる

【成果】

- ・新しいアイデアが生まれたり、自分の意見を深めることができた。
- ・新たな角度から「十三の町」を見つめることができた。
- ・主体的に活動することができた。

【課題】

- ・観点を焦点化して話し合いをする必要があった。

1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ

2 課題解決的に学習を進めるグループ

筆者自身の考えを伝えるために、どのような構成で書いているのか、伝えるためにどんな事例や資料を取り上げているのかを考え読み取り、「大阪や十三の文化・伝統の魅力を他府県の人たちに伝える」紹介文を完成させる。

大阪の伝統や文化についての紹介文を書く！

⑥ 紹介文の完成（推敲）

⑤ 大阪や十三の文化・伝統の情報収集

④ 説明文の事例・事実の中身を考える

③ 説明文の構成（事例・事実・根拠）を考える

② 説明文の構成（筆者の考え）を考える

① 学習の見通し・計画を立てる



これまでに学習したこと

【目的に合わせて要約する】

【記事の書き手の意図を読む】

☆どんな構成で伝えたいことを表しているのか
☆複数の資料からわかる情報は何か

社会科

③ 水をもとに、^{かんきょう}環境について考えよう。

きれいな水は、どのようにしてできるのか。

② 水は、どうやって^{じょうすいじょう}浄水場からじゃロにとどくのだろうか。

① ^{じょうすいじょう}浄水場で、どのように水をきれいにしているのか。

④ どんなときに水を使っているのか。

1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ

スタート

課題解決型の学
習で進めること
ができる

自身で問題を
発見しつくる
ことができる

ゴール

自身で問題を発見し、
解決に向けて学習を進
めていくことができる

1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ

実践例Ⅰ（学びの山の作成）

必要な学習

学習の順番



① 学習の見通し・計画を立てる

② 新聞記事の構成について考える

③ 見出し、リードについて考える

④ 写真の役割について考える

⑤ どちらの記事のほうがいいのか考える

⑥ 新聞を作成し編集会議を開く

水難事故防止
するために新聞を
発行する

これまでに学習したこと 【表し方の違いを読み取る】

1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ

筆者はどんな意図を新聞記事に書いて伝えているのか、伝えるための工夫は何なのかを考え読み取り、水難事故を防ぐための新聞を完成させる。

水難事故防止するために新聞を発行する

まとめ・表現

整理・分析

情報収集

課題の設定

☆書き手の伝えたい意図は何だろう
☆よりの伝わる新聞記事の構成とは何だろう



1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ

実践例 2 (探究のサイクルを回す練習)

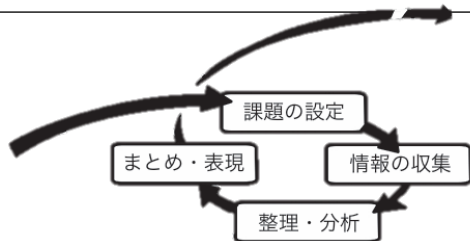
①



誰でもが解決できる課題



焦点化をし視点を持つ



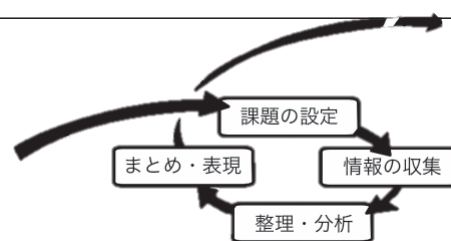
②



視点を用い応用的な課題



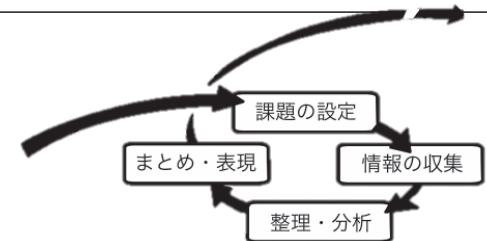
新たな視点の獲得



③



学んだ視点を用い自身の課題



実践例3（実践後の取り組み：大造じいさんとがん）

十三小学校 5年1組 2025年11月17日 発行

大造さん3度目の挑戦 ～おとり作戦～



「大造じいさんと
ガン」新聞

発行者：
古賀 舜平

一回目のウナキつりばり作戦、二回目のタニシばらまき作戦を試したが、残雪のために失敗してしまった大造さん。今度は、二年前に生じたガンといちはん最初に飛び立ったものの後について飛ぶというガンの習性を使い、おとり作戦にでた。果たして大造さんは、二度目の正直としてガンをとることができたのか？

しっかり準備もでき、小屋の中でワクワクしながらも心を落ち着かせていた大造じいさん。が、いきなりハヤブサが大造さんのおとりのガンを攻撃。大造さんは、口笛を吹いてそのガンと呼んだが、ハヤブサには逆らえない。ハヤブサがまた攻撃をしようとした時、残雪がやって来た。大造さんは残雪をねらったが、なんと銃を下してしまった。残雪は、救わなければならぬ仲間のために命をかけてでも戦ったのだ。大造さんは、いかにも頭領らしい残雪の姿をみて、強く心を打たれたのであった。

編集後記

私はこの記事を書いていて大造さんの立場になった時、残雪のすばらしい野生動物のすばらしさを感じた。私達とたいぶ違う暮らしをしている自然の生き物は敵がいる中で生き抜かなければいけない。自分が一番なはずなのに仲間を助けようとする残雪の姿は、とても勇敢で心に響く行動だと思った。

インタビュコーナー

大造さんにインタビュー

Q なぜあんなとき、残雪をつるチャンスだったのに銃を下してしまったのですか？

A やっぱハヤブサと戦っているとき、絶対仲間を救いたいという思いがあの目から伝わってきて感動したからだよ。



十三小学校 5年1組 2025年11月17日 発行

独占インタビュー！ 大造じいさん特集！

発行者：
古賀 舜平

この度は、大造じいさん七十二才にお時間をいただきました。
聞き手 II 古賀 舜平 (古)

作戦失敗時の心境

(古) 二回も作戦が失敗したあの時、どのような気持ちでしたか。
(大) いとも立ってはいられない、というか。あとで見る目を変えましたが、やっぱり怒りの感情が大きかったですね。鳥ごとき、ガン一羽なのにどうしてつかまえられるのか、と。その頃は残雪のことをかなり甘く見ていたので、うまくわなを見破られたときは感嘆の一言でしたよ。

銃を下した理由

(古) おとりのガンをハヤブサから助け出していた残雪を狙ったのに銃を下してしまったのはなぜですか。
(大) 鳥を見ているような気がしなかったんです。命を懸けてでも仲間を守ろうとする強い意志に圧倒されてしまっ。ここで撃つか撃たないか以前に、残雪の勇気ある行動に感動してしまいました。
(古) 「撃たなかった」ではなく「撃てなかった」に近いということですか。
(大) はい。そうですね。残雪の姿に感動を覚えて、先刻いった通り、撃つ撃たないなどを考えているところではなかったんです。むしろ私が残雪に心をうつされたね。(笑)

編集後記

大造さん (72才)

どういう質問にするか、すごく悩んだけれど、迷いに迷った結果、自分ごとくに気になった、疑問に思った三つを選んで載せました。本物のインタビュアーになった気がして、楽しく書くことができました。最後まで読んでくれてありがとうございます！

(古) 残雪に対してどう思っていますか。今。
(大) 私を成長させてくれた、敬うべき存在です。私にとつての英雄です。仲間にならうものなら、命を捨ててもかけつける、そんな心を見習いたい。また、堂々と戦いたいと心から願っています。



1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ

課題：大造じいさん新聞を発行しよう！

「大造じいさんとガン」に書かれている、視点や行動、会話などの様子から大造じいさんの人物像や心情の変化、情景を読み取る。そして学習したことをもとにして大造じいさんや作者にインタビューをし「大造じいさん新聞」を完成させる。

大造じいさん新聞を発行する！

☆中心人物の人物像とは
☆視点、行動、会話、様子はどのように書かれているのか

⑨ クラスで交流

⑧ 新聞にまとめる

⑦ インタビューをする（共同）

⑥ 解決した問いの共有（個人）

④⑤ 解決したい問を選び進めていく（個人→共同）

③ 問づくり（個人→全体）

② 物語のあらすじについて

① 学習の見通し・計画を立てる、意味調べ

これまでに学習したこと 【人物の気持ちの変化を想像する】
【表現の工夫を見つける】



成果と課題

- ・ 課題解決の学習で、自分の課題を見通して計画的に学ぶ力が育ってきた。主体的に取り組む姿も定着している。今後は、他の教科でも探究のサイクルを生かし、自分で学びを進められるようにしていく。
- ・ 課題解決型学習の定着により、児童は探究サイクルを意識して計画できるようになった。しかし、自ら問題を発見する力はまだ十分ではない。今後は課題解決型学習と並行して、問題発見型学習も取り入れる必要がある。

1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ

3 100周年グループ

菜の花畑プロジェクト (6年 総合)

【仮説検証】

原動力(エネルギー・パワーなど)があれば、
より探究的に
物事を考えることができる。

生成AI(gemini)で作成したイメージ画像



1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ

菜の花畑プロジェクト



阪急電車の線路沿い
約1a(1.5m×60m)の**学習園**
道行く地域の人や**車内の乗客**
思わず振り返る

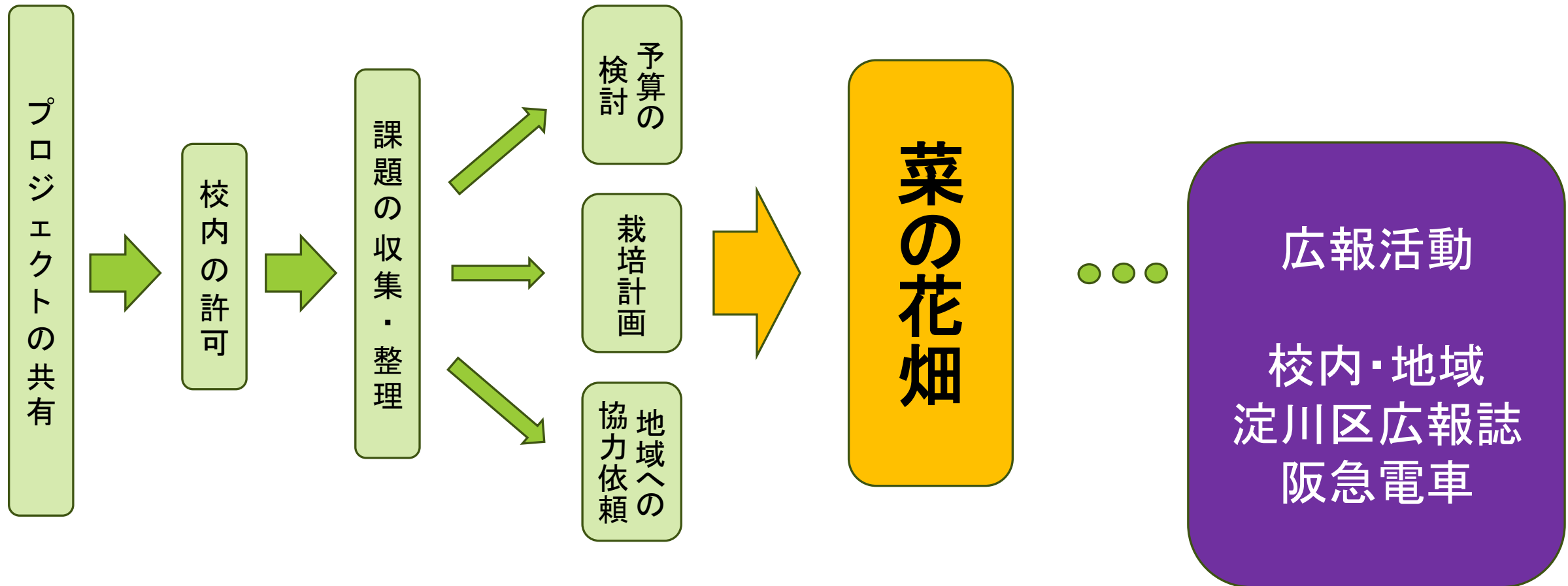
黄色の帯

1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ



1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ



1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ



1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

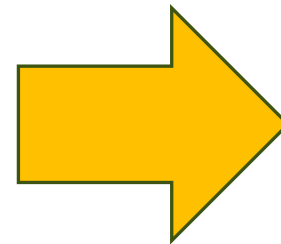
4. 研究のまとめ



100周年のため



自分たちのため



探究的な学び



1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ

研究のまとめ

1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ



学校アンケートより

国語の学習は分かる。



国語の学習は楽しい。



算数の学習は分かる。



算数の学習は楽しい。



肯定的回答が 90%以上

1. はじめに

2. 研究の概要

3. 実践の紹介

4. 研究のまとめ



学校アンケートより

社会の学習は好きだ（分かる）。



社会の学習は楽しい。



理科の学習は好きだ（分かる）。



理科の学習は楽しい。



話合いで、考えを広げたり深めたりできた。



ほぼ 肯定的回答が 80%以上

探求アンケートより

めあてが示され，自分で目標を立てたか。

51.6

41.8

5.2

学習内容を振り返ることができたか。

52.9

40.5

5.9

話合いで，考えを深めたり，広げたりできたか。

43.1

49.7

6.5

自分で考え，自分から取り組んだか。

47

45.1

6.5

自分にあった教え方，教材，学習時間だったか。

59.5

30.7

8.5

肯定的回答が 90%以上

研究のまとめ（成果）

- ・ 教師が学びの「伴走者」として、「共同探究者」の役割を果たすことで、児童が主体的に学びを深めることができた。
- ・ 学習計画を一緒に立てることで、単元全体を見通して学習を進めることができた。また、1時間の学習の位置付けをして、学習に取り組むことができた。

研究のまとめ（成果）

- ICTを活用することで、調べたり協働的に学習したりすることができた。
- 「対話」を取り入れた授業づくりを行うことで、他者の考えを聞いたり、伝え合ったりして、考えを深めることができた。
- 教員自身が追究したい教科の指導に対する思いを尊重しながら、研究を進めることができた。（学び続ける姿勢）



研究のまとめ(課題)

- ・ 探究的な学びについて, 手探りで進めている状況
- ・ 育成したい資質・能力から, カリキュラム・マネジメントを立案
- ・ ICTの効果的な活用方法
- ・ 「対話」を活かす, 系統的な指導
- ・ 児童の考えの深まりの評価方法
- ・ 教員の専門性や指導教科の指導法の工夫
- ・ 児童・地域の実態に沿った, 積極的な学校運営

令和7年度

児童が主体的に学びを創造する

—探究的な学びの視点を取り入れた授業づくり—

ご清聴ありがとうございました

